

2019 年度 一般社団法人 大学女性協会 全国セミナー

# 家庭科教員への調査から見える 現状と課題

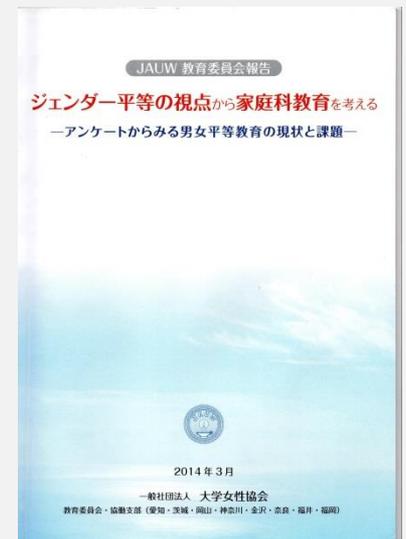
大学女性協会 茨城支部  
副支部長 中島 美那子

# 1. はじめに

本発表は、大学女性協会  
教育委員会（当時）で実施した  
調査・研究「ジェンダー平等の視点から家庭科教育を考える」の家庭科教員への質問紙調査のデータを使用して分析を行なった結果についての報告である。

（調査期間：2012年7月～2013年3月）

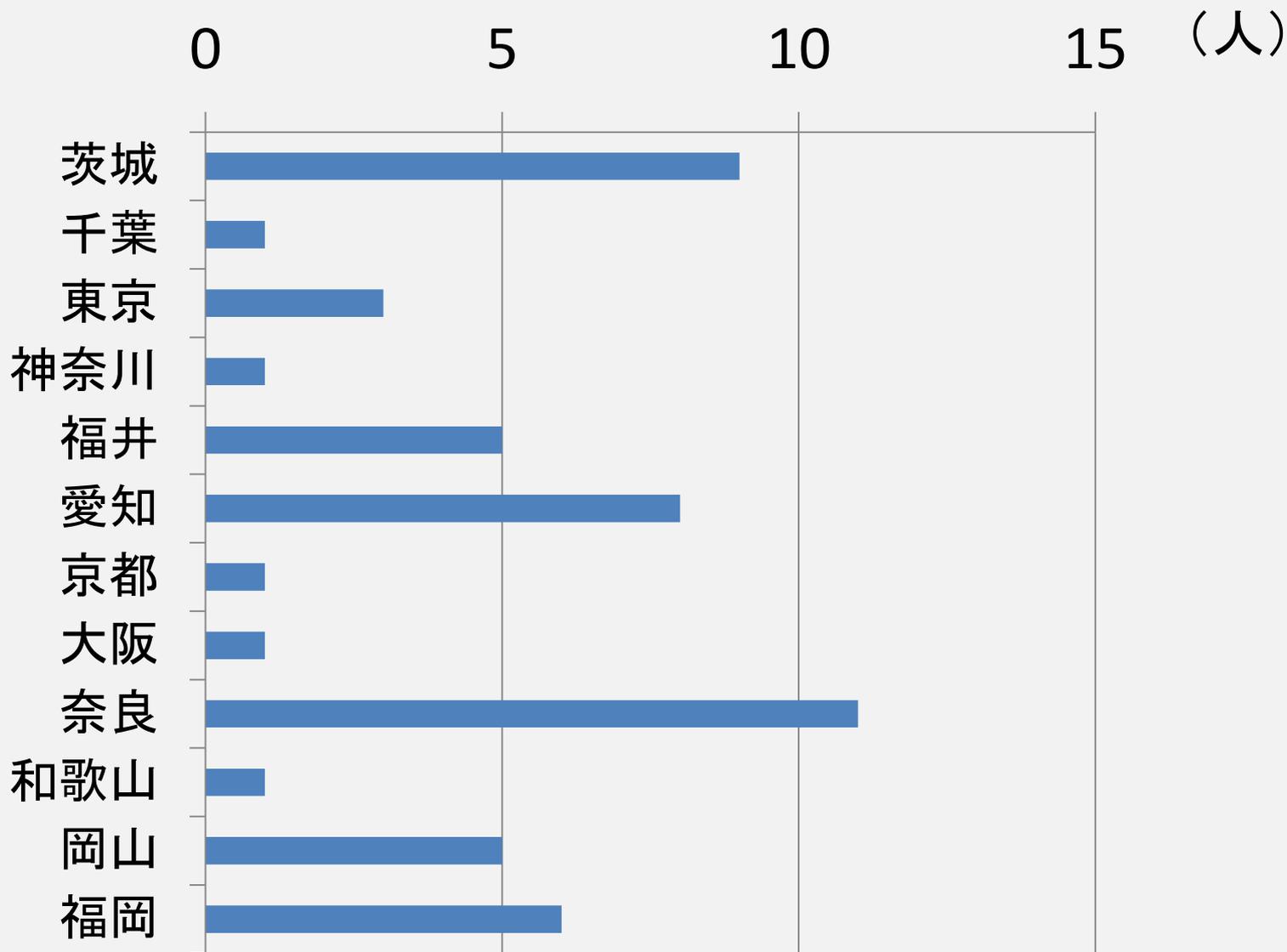
また本発表内容は、日本家政学会第67回大会における発表内容を加筆修正したものである。



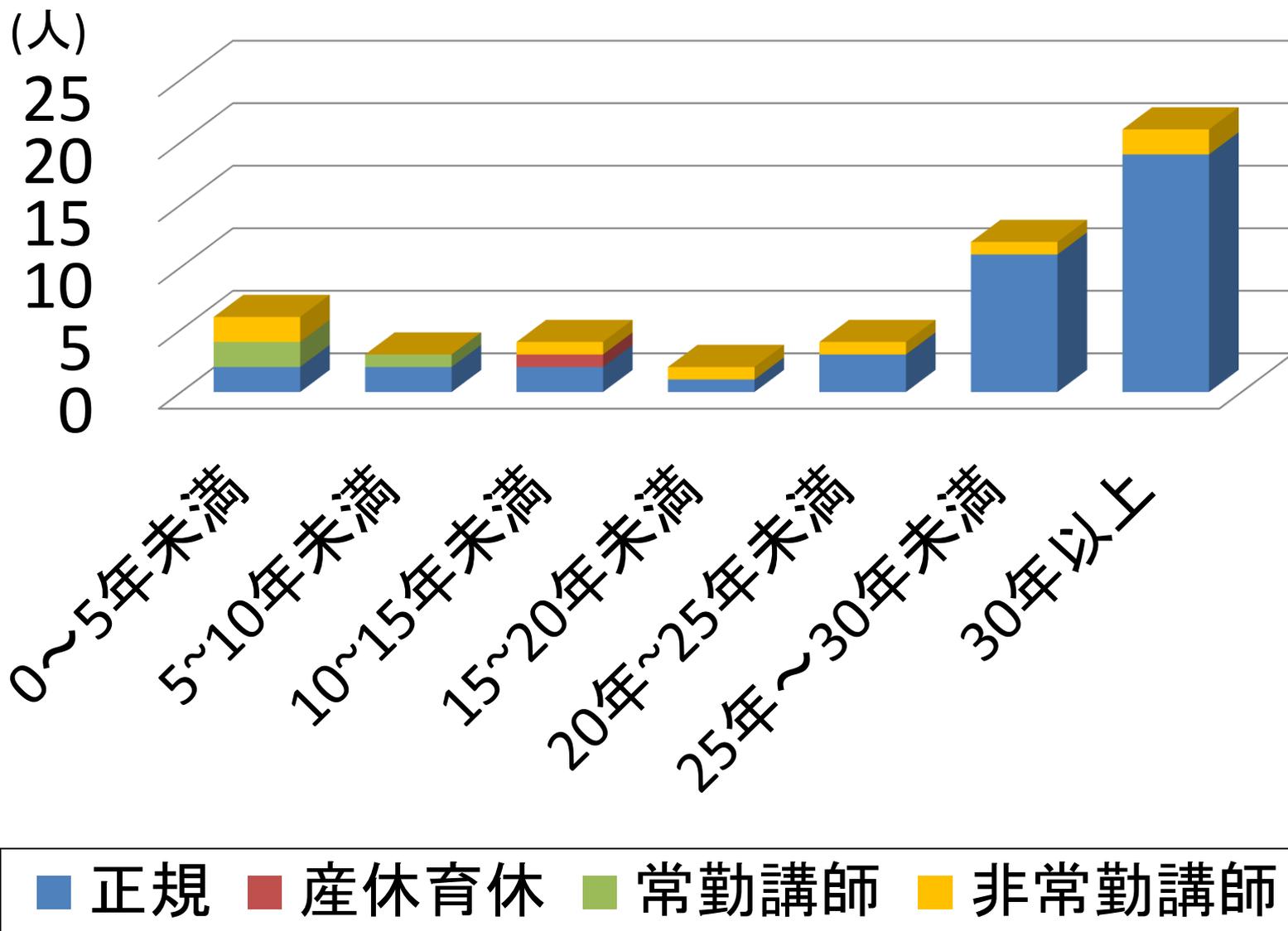
- 今日の課題として、少子高齢化、そこに付随する労働力の不足、そして育児不安や児童虐待などが挙げられるが、これらの改善・根本解決のために必要なことのひとつとして若年層へのジェンダー平等教育、男女平等教育がある。
- 現在、学校教育において「社会科」や「保健体育」といった教科に比して、「家庭科」が最も男女平等の問題を取り上げているという（良,2010）。
- そこで高校家庭科に着目し、家庭科教員が男女平等やジェンダー平等に対してどのような考えを持っているのか、授業の中でどのような位置づけとしているのかについて、調査を実施した。

## 2. 調査対象者・対象校の概要

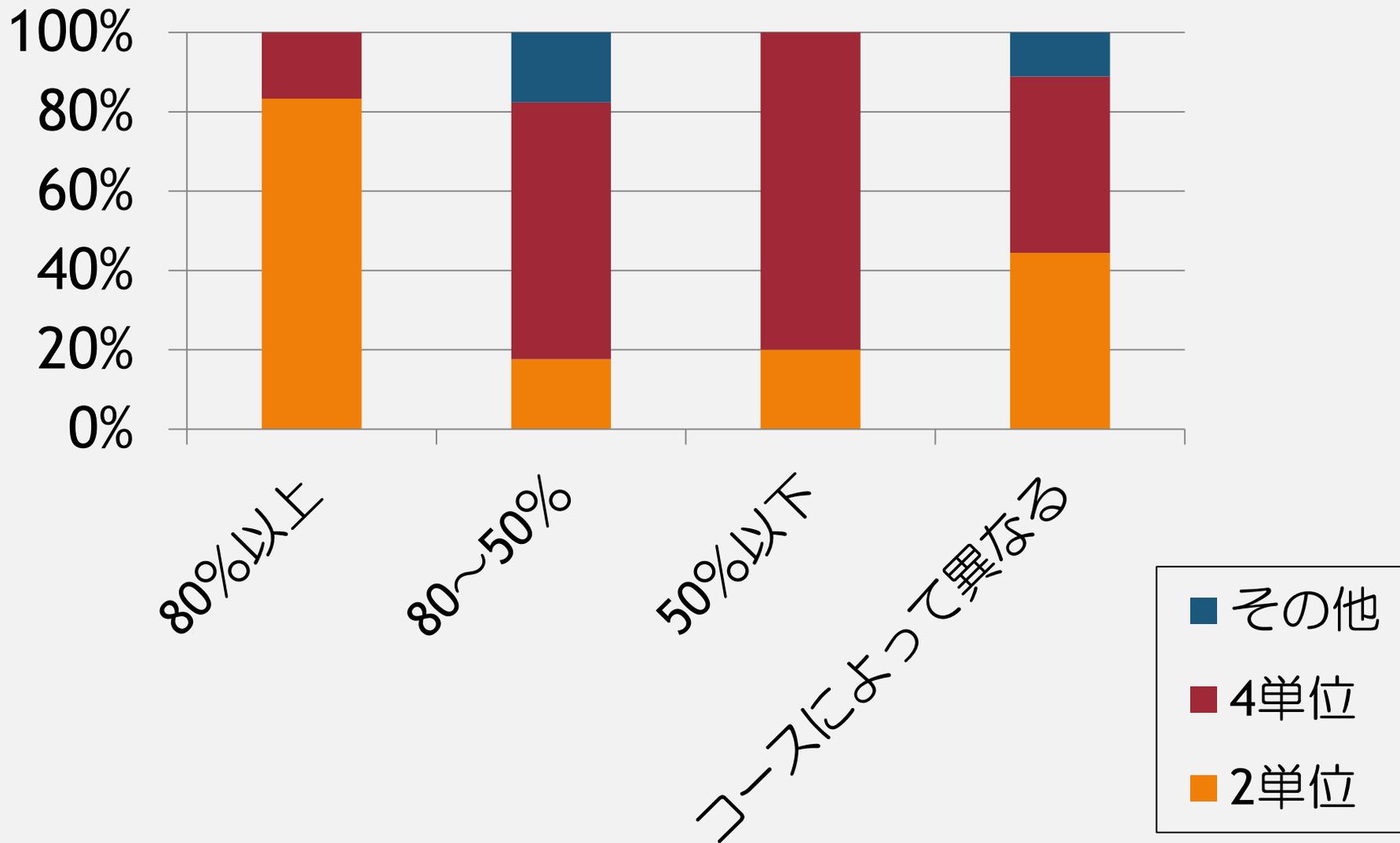
# 図1 対象者の勤務地 (n=52)



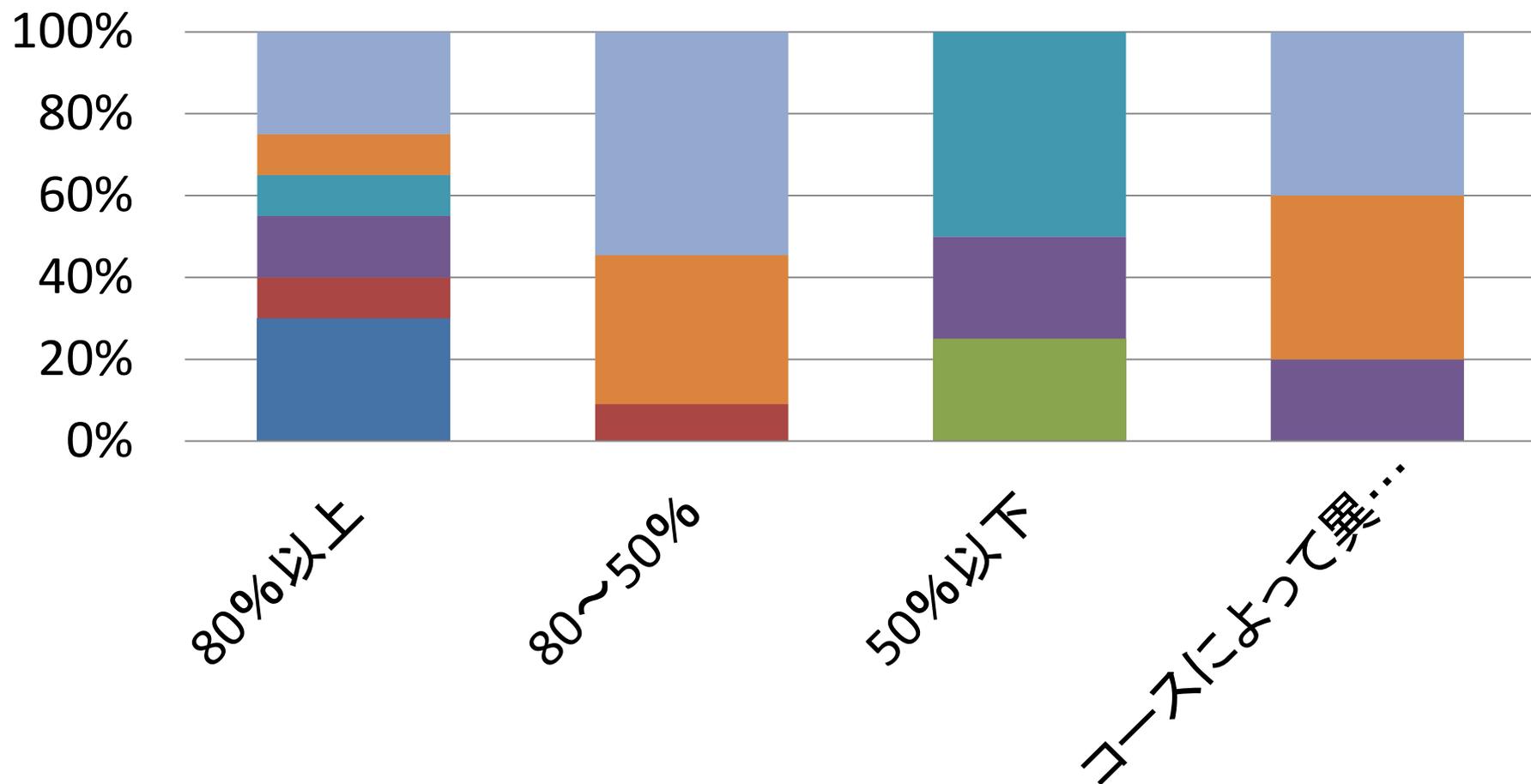
# 図2 勤務年数と雇用形態 (n=52)



# 図3 進学率別単位数 (n=40)



# 図5 進学率別家庭科履修学年 (n=40)



- 1年
- 2年
- 3年
- 1年と2年
- 1年と3年
- 2年と3年
- 全学年

### 3. 家庭科授業について

**表1 実際を実施している授業の割合平均  
(n=36)**

青年期の自立	5.2%
家族・家庭	9.4%
子どもの発達と保育	11.8%
高齢期の生活・福祉	6.2%
生活の科学	20.0%
消費生活	9.3%
男女平等*	4.1%
調理実習	17.4%
保育実習	2.8%
裁縫実習	11.5%
その他	2.1%

\*「男女平等」という独立した単元はないが、本研究の目的から、あえて項目を立てた。

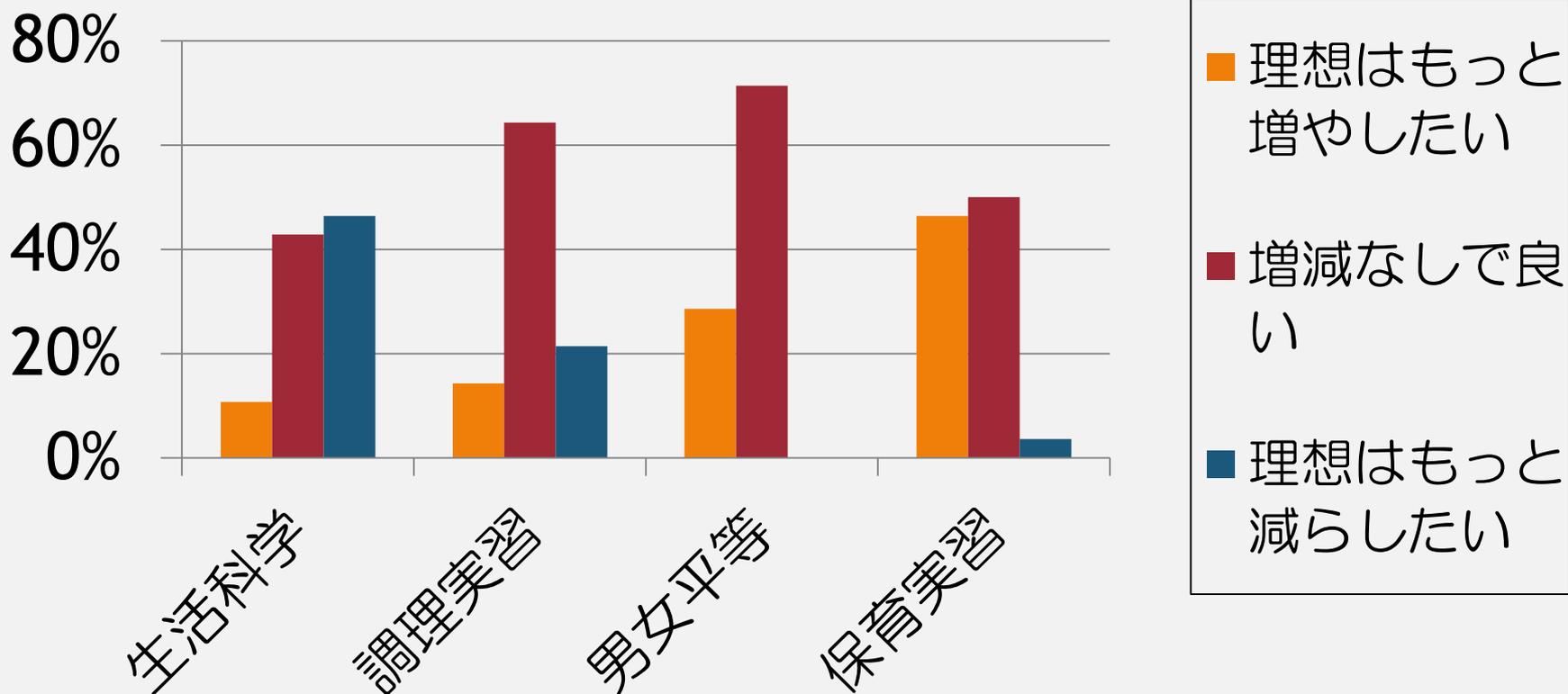
「男女平等」を扱った授業の割合

**最高値 10%**

**最低値 0%**

36名中8名  
(22.2%)が「0%」  
としている。

図6 理想とする授業の割合について (n=28)



実際に行っている授業の割合上位2位（生活科学・調理実習）、下位2位（男女平等教育・保育実習）の本来理想とする授業の割合について調査した。

男女平等教育については、「もっと減らしたい」と考える者は0だった。

## 4. 授業で男女平等を扱うことについて の考え

# 《 自由記述から 》

「男女平等を教えることに関して、お考えをお書きください」と尋ねた。

その記述から以下の5つの分類が見出された。

- ①教えることは大事・積極的に教育
- ②教えることが難しい
- ③教科書に書かれている事を教えるのみ
- ④教えることには消極的
- ⑤その他

## 表2 それぞれの記述から

①	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 男女平等教育は高校においては家庭科が大きな役を担っている。</li><li>・ 全項目を通して男女平等を教えている。</li></ul>
②	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>資料を見つけることや生徒に合った教科研究</u>をすることに難しさを感じている。</li><li>・ <u>どの分野でどう取り上げると良いのか、</u>悩む。</li><li>・ 「いつ、どこで、どんな形で」の<u>体系化</u>がなく、<u>個人によるところ</u>が大きすぎる。</li></ul>
③	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 男女共同参画社会基本法を教科書のみで教えている。</li></ul>
④	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>すべてが男女平等であるというより、男らしさ、女らしさを大切にしながら自分らしく、</u>と教えていきたい。</li><li>・ 男子は、男女平等の意識が自然と身についている生徒が多いと思う。「<u>教える</u>」という行為で負の力が働くこともあると思う。</li><li>・ <u>自分の中にジェンダーがあるので、男女平等を教えようという心構えに欠ける。</u></li><li>・ 男女平等よりも、「<u>人間としていかに生きるか</u>」を考えさせることの方が重要。</li><li>・ <u>生徒たちに男女による差をほとんど感じない。</u>何を教育したら良いのか分からない。</li></ul>

5. さいごに

調査対象者数が少ないため一般化はできないが、本調査より以下のことが認められた。

- 高校家庭科において、男女平等を意識的に取り入れることは少ない。
- 経験の浅い(10年未満)教員は、男女平等教育を大事だと思いながらも、その実施について悩んでいる者が多い。しかし、講師であることも多く、学ぶ機会がない。
- 10年以上の教員経験のある者は、男女平等教育を難しいと思っている人が少ないが、一方で、教える必要性を感じない人も少なからず存在する。

### 必要な事は…

- (1) 教員経験年数に限らずすべての家庭科教員が、日常の問題のみならず、社会システムから見たジェンダー平等・男女平等を学ぶ機会の保障
- (2) 授業実践の蓄積

## 引用文献：

良香織(2010)家庭科におけるジェンダー／セクシュアリティに関わる教育実践の現状と課題-高校生と家庭科教師を対象とした調査から-. 日本家庭教育学会,53(2). 82-91

中島美那子(2016)ジェンダー平等の視点からの家庭科教育(1)-家庭科教員への調査から-. 日本家政学会第67回大会.